

平成 24 年 2 月 7 日

文部科学大臣 平野 博文 殿

全国柔道事故被害者の会
会長 小林泰彦

要 望 書

18 歳以下の学校管理下における柔道による死亡事故は、28 年間で 114 名に上ります。このような状況下でありながら、本年 4 月より武道必修化が実施されます。

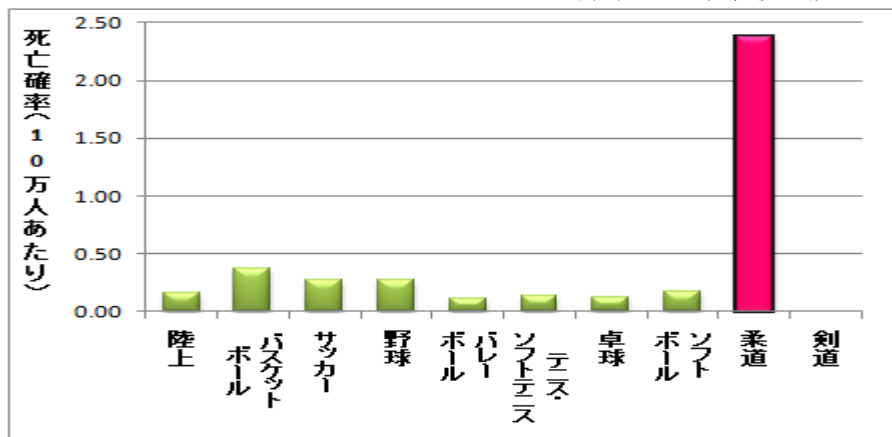
① 国民が納得できる安全確保の仕組みの提示

② 中立的な第三者による事故調査委員会設置の義務付け

事故防止策を確立して下さい。

【中学校における柔道の死亡確率】 全国 2000 年度～2009 年度（10 年分）

内田良名古屋大学准教授調査



2011年6月5日更新

学校リスク研究所 http://www.geocities.jp/rischool_blind/

フランス 柔道人口は日本の 3 倍

2005 年以降 18 歳以下の死亡事故ゼロ （フランス柔道連盟報告）

【武道必修化準備状況への危惧】

- ① 多数を占める急造指導教諭の専門知識不足・経験不足
- ② 安全を確信できぬレベルのカリキュラムや指導方法
- ③ 柔道事故発生時の指導教諭の対応力不安
- ④ 事故の情報収集・分析の仕組みがない

平成 24 年 2 月 7 日

幹事長 興石 東殿

全国柔道事故被害者の会
会長 小林泰彦

要 望 書

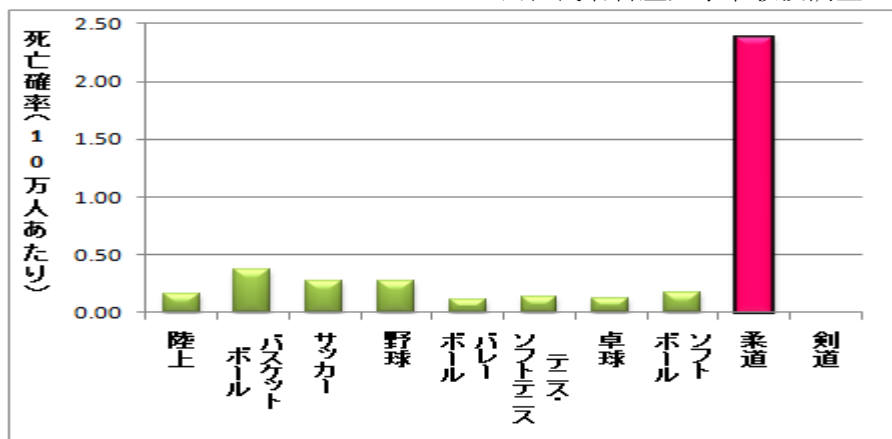
18 歳以下の学校管理下における柔道による死亡事故は、28 年間で 114 名に上ります。このような状況下でありながら、本年 4 月より武道必修化が実施されます。

①国民が納得できる安全確保の仕組みの提示

②中立的な第三者による事故調査委員会設置の義務付け

事故防止策を確立して下さい。

【中学校における柔道の死亡確率】 全国 2000 年度～2009 年度（10 年分）
内田良名古屋大学准教授調査



2011年6月5日更新
学校リスク研究所 http://www.geocities.jp/rischool_blind/

フランス 柔道人口は日本の 3 倍

2005 年以降 18 歳以下の死亡事故ゼロ (フランス柔道連盟報告)

【武道必修化準備状況への危惧】

- ①多数を占める急造指導教諭の専門知識不足・経験不足
- ②安全を確信できぬレベルのカリキュラムや指導方法
- ③柔道事故発生時の指導教諭の対応力不安
- ④事故の情報収集・分析の仕組みがない

【要望の具体的なイメージ】

①国民が納得できる安全確保の仕組みの提示

[文科省作成の基本的な仕組みに含まれるべき内容]

- 子供の安全を担保できるレベルの指導者の確保
医学的な知識（特に脳震盪）・柔道指導経験・教育的な知識
指導者の経験に頼らない安全指導方法の確立
柔道事事故例の知見から学ぶ
- 授業だけでなく、部活動でのカリキュラムや練習時間の見直し
授業では、大外刈りなど頭部打撲リスクのある技の禁止
⇒頭部外傷の40.9%は大外刈り
授業では、自由練習（乱取り）など試合形式の禁止
⇒重篤事故の大半は、乱取り中に発生
絞め技の禁止（部活動を含め高3まで）
⇒絞め落とすことで、必ず脳はダメージを受ける
- 部活動及び授業開始前の、生徒の体調確認方法の確立
頭痛、及び授業の1週間前までに頭を打っている場合
⇒部活動及び授業への参加禁止
- 部活動及び授業中における、生徒の変調の検知方法の確立
脳震盪に要注意
⇒脳震盪を軽く見て、重大事故につながっている
- 事故発生直後の対応方法の確立
たとえ数秒であっても、意識を失った場合は即救急車
（意識を失い続けていても、救急車を呼ばないケースが多い）
- 部活動参加及び授業開始にあたり、父母への学校説明会の実施義務
家庭で頭痛を訴えた場合、学校への通知要請
学校で頭を打った場合、必ず家庭へ報告義務

②中立的な第三者による事故調査委員会設置の義務付け

- 委員会の目的：
 1. 事故情報の収集
 2. 重大事故の個別調査の実施
 3. 事故原因の分析
 4. 再発防止への提言
 5. 事故情報の公表
- 設置場所：各都道府県の知事直轄組織
- 中立的な第三者：脳神経外科医、警察、教育者、マスコミ、
法医学者、法律家、一般市民、
- 設置の義務化：法律で設置を義務付ける
学校長には1週間以内の報告義務を負わせる。